

## 平成27年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第6回葛飾区行政評価委員会第一分科会
開催日時	平成27年8月18日(火) 午後3時から5時
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員7人】 大石会長、石井委員、金子委員、佐々木委員、西山委員、三宅委員、望月委員 【区側5人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員4人)

### 会議概要

#### 1 開会

(事務局より資料の確認を行った)

#### 2 事務事業評価

##### (1)「介護人材雇用促進事業」

(前回までの議論をふまえての事務事業評価)

<実績(成果)>

特になし。

<実績(コスト)>

A委員 : ハローワークなどにはある程度のまとまった部数の「介護のしごと発見」のチラシを送付していると所管課長から説明を受けたと記憶しているが、そのチラシを受け取ったのち、他の事業所等に送付することになるのか。その際に要した郵送費は当事業の経費になるのではないか。

B委員 : ハローワークは、就業を目的とした人々が足を運ぶ場所であり、宣伝効果が高いため、まとまった部数を置いているのではないか。また、チラシは来所者に配布することを想定しているため、郵送費はかからないと思う。

<今後の方向性について>

大石会長 : 「様々な広報媒体」の様々という表現をもっと具体化できないか。

C委員 : 具体的に表現すると、かえって手段を限定してしまうことにつながる恐れがある。

大石会長 : しかし、提言の意図が区民に伝わるかは疑問である。区が気付かない点を提言することも我々の役割ではないか。

A委員 : 「介護人材雇用促進事業」は介護事業者を支援するための事業という理解でよいか。

D委員 : 区民のための事業であろう。

B委員 : 介護サービスに携わる人材が不足しているため、その人材を確保していくことを目的とした事業ではないか。

C委員 : 十分な働き手を確保すべき重要な職種であるが、介護事業者を支援することだけに焦点を当てては本末転倒であろう。

大石会長 : 同意見である。本事業の方向性は「拡充」でまとめたいと思う。(委員一同より異議なし)

## (2) 「図書館ボランティア育成事業」

<実績(成果)>

意見なし。

<実績(コスト)>

大石会長 : 「交通費等の活動費にかかる実費」に関する提言が「実績状況」欄に記載されているが、これまで実績として支給していないことを鑑みると「今後の方向性」の欄に記載すべきではないか。

D委員 : 提言内容から考えると、「今後の方向性」の欄に記載すべきである。

事務局 : 主管課に確認したところ、ボランティア活動に交通費等の実費はかかっていないとのことである。理由としては、児童館や保育園からの読み聞かせの依頼は、当該施設の近隣の図書館になされる場合がほとんどであり、依頼のあった図書館にボランティア登録している大半の人が、当該図書館の近隣に住んでいるためである。

ただし、ボランティアの活動地域が広がる等、さらに活動が活発になれば、交通機関等を利用して依頼先に赴くことも考えられる。

A委員 : ボランティアの資質の向上を図るため、人材育成につながる研修を充実させたほうが良いという内容の提言があったが、文末の表現は「充実させるべきである」としたほうが良い。

大石会長　：事業の今後の方向性は「拡充」とするのが良いと考えるが、どうか。（委員一同より異議なし。）

### （３）「拠点回収促進」

＜実績（成果）＞

Ｃ委員　　：「巡回回収の日時が限られていることが、古布が可燃ごみとして廃棄されている要因の一つになっている」というような、現状の課題に言及した内容の提言をしても良いのか。

事務局　　：問題ない。

＜実績（コスト）＞

意見なし。

＜今後の方向性＞

大石会長　：古布の回収ボックスの増設や区民の資源回収意欲を向上させる取り組みを行うための予算措置を要望する旨を提言に盛り込んでほしい。